

保育現場における保育士が捉える言語活動

—— 具体的な目安とする子どもの姿を探る ——

Linguistic activities noted by nursery teachers at nursery schools

— An in-depth exploration using the child as a specific guide —

小島 千枝

Kazue Kojima

堀 美鈴

Misuzu Hori

I. はじめに

子どもが小学校に入学すると、それまでの保育園での生活とは違った形式で生活が展開される。子どもたちは期待とともに、不安も交えながらこの新しい生活に入って行くのだが、小学校の生活に馴染めない「小1プロブレムの問題」¹⁾ など、幼保小の接続はいろいろな角度から研究が進んでいるところである。

その中で、言葉の面に着目すると、保育園では領域「言葉」として音声言語中心の支援が行われているが、小学校では、「国語」という教科になり、音声言語の学習に文字学習が加わる²⁾。このことは、子どもにとっては大きな変化であり、学校生活を送る際に、自分の言葉で語ること、小学校の先生とのコミュニケーションが図れること、必要な読み書きの力がついてることなど、「言葉」に関する力が養われている必要があり、保育現場では小学校への連続性を意識した保育が展開されている。小学校への滑らかな接続を図ることは、子どもの成長にとって躓きを取り除き、自己肯定感を育むために大切にされなければならない事項であると考えられる。

保育現場では、保育所保育指針に基づき、カリキュラムが立案され保育が行われている。保育所保育指針の目標では、「生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと」とされ、領域「言葉」では、「経験したことや考えたことなどを自分な

りの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」とある³⁾。

また、保育所保育指針の改定により新しく示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、子どもの小学校就学時の具体的な姿として10項目で示され、保育士等が指導を行う際に考慮するものとされている。

10項目中で「言葉」に関する項目は以下の2項目である⁴⁾。

ク 「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」
遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

ケ 「言葉による伝え合い」

保育者等（先生）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

保育現場では、保育所保育指針やカリキュラムにもとづき、小学校入学までに資質・能力が育まれるように、日々遊びの環境を準備し、子どもたちへの支援を行い、保育活動を営んでいる。しかし、こうした目標や年間計画などは、子どもの姿を大きく捉えたものであり、日々の実践で保育者が振り返りをして、評価・反省、改善をしていくPDCAサイクルを繰り返す行うための具体的な子どもの姿の目安はない。保育者は、

手探りで評価・反省を行い、改善を図り、次の計画、活動につなげていることになる。

保育実践において、ねらいに沿った環境や手立てができていれば、子どもが概ねそのようになる姿を目安として示すことで、実践の振り返りに役立てられる指標を作成できるのではないかと考え、目安となる具体的な姿を示すこととした。

II. 研究方法

1. 研究協力者

I 市立保育園 12 園

0 歳～5 歳児クラス担当保育士 64 名

ワーキンググループ：I 市立保育園 園長 2 名，主任 2 名

2. I 市立保育園の概要

I 市は、人口約 7 万 4 千人の市で、公立保育園 12 園と私立保育園 2 園があり、0 歳児から 5 歳児まで、約 1,100 人の乳幼児を保育している。

3. アンケート調査の実施

平成 30 年 8 月、公立保育園の保育士にアンケートを実施した。各年齢の担当保育士は、領域「言葉」に関する実践について「遊び名」「ねらい」「具体的な子どもの姿」を記載して提出した。(表 1)

4. 分析の方法

- ・各園から提出された遊び名から、遊びの一覧を作成し、特徴を分析する。
- ・各園から提出された子どもの姿から特徴的なキーワードを抜き出し、年齢、遊びごとの目安となる姿をまとめる。

III. 結果と考察

各園から提出されたアンケートをもとに遊び名の一覧を作成し、記載されたねらいや子どもの姿から、「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 項目の要素について記載がある遊びにチェックをした。(表 2)

0 歳児では、ねらいとして「言葉のリズムを楽しむ」

「いろいろな言葉に触れ会話の心地よさを知る」などが記載され、子どもの姿からは、「保育者の声掛けに応じて喃語や仕草で表す」「あやしてもらおうと機嫌よく笑う」など保育者が子どもに対して意識的に声掛けをし、子どもとやり取りをしている。

1 歳児では、絵本の読み聞かせと手遊び・ふれあい遊びをほとんどのクラスが実践している。ねらいとして「聞いて真似しようとする」「保育者と言葉や動きのやり取りを楽しむ」などが記載され、子どもの姿として「簡単な言葉をまねて繰り返し言う」「いれて、かしてなどのやり取りをして遊ぶ」など、言葉の始めに合わせて保育者は丁寧に繰り返し言葉をかけ、子どもが返す言葉を受け止めている。

2 歳児では、絵本の読み聞かせと手遊び、ふれあい遊び、ごっこ遊びをほとんどのクラスで実践している。ねらいとして「言葉のやり取りを楽しむ」「心地いい言葉のリズムを楽しむ」「お話を楽しむ」などが記載され、子どもの姿として「知っている言葉で保育者や友達とやり取りをする」「歌に合わせて口ずさんだり体を動かす」「気に入った本を何度も読んでもらいたがる」など、言葉が増えてきた子どもに合わせて、会話ができるようにやり取りをし、言葉への関心が持てるような保育活動を準備している。

3 歳児では、絵本の読み聞かせやごっこ遊びだけでなく、朝の集まりの会での話や、かるたとりなど、「聞く」「話す」という言葉を使った活動が遊びとして記載されている。子どもの姿として「自分なりの言葉で話す」「読み札の言葉を聞いて探す」など、話し言葉が完成する子どもに合わせて、保育者は子どもに話すことを促している。

4 歳児では「読む」の項目が増える。言葉集め、しりとり、当番活動が遊びとして加わる。ねらいとして「言葉を探しひらがなに触れる」「文字に興味を持つ」などが記載され、「知っている文字を読もうとする」「知らない言葉を保育者に聞く」など、文字への関心が出てきた子どもに合わせて、保育者は、生活や遊びの中で意識的に文字を書き、字に触れる機会を作っている。また、4 歳児では、ねらいとして「友達の話聞き、言葉に関心を持つ」「友達とイメージを共有して

(表 1) 本研究で実施したアンケート項目

学年	遊び名	ねらい	子どもの姿
5 歳児			

(表2) 年齢ごとの遊び名一覧

5歳児	書	読	聞	話	4歳児	読	聞	話	3歳児	聞	話	2歳児	聞	話	1歳児	聞	話	0歳児	聞	話
言葉集め	○	○	○	○	言葉集め	○	○	○	言葉集め	○	○									
									オノマトベ集め	○	○									
しりとり	○	○	○	○	しりとり	○	○	○	※擬音語(ざあざあ)											
なぜなぜ			○	○	なぜなぜ		○	○												
デイリーニュース(日付け, 天気調べ)	○	○	○	○	デイリーニュース(日付け, 天気調べ)	○	○	○	デイリーニュース(日付け, 天気調べ)	○	○	朝の会(挨拶, 名前)	○	○	朝の会(挨拶, 名前)	○	○	朝の会(挨拶, 名前)	○	○
デイリーニュース(スピーチ)		○	○	○	デイリーニュース(スピーチ)		○	○	デイリーニュース(スピーチ)		○									
かるた取り		○	○	○	かるた取り		○	○	かるた取り		○									
かるた作り	○	○	○	○																
絵本, 紙芝居	○	○	○	○	絵本, 紙芝居	○	○	○	絵本, 紙芝居	○	○	絵本, 紙芝居	○	○	絵本	○	○	絵本	○	○
図鑑		○	○	○	図鑑		○	○												
素話			○	○																
すごろく		○	○	○																
すごろく作り	○	○	○	○																
郵便ごっこ	○	○	○	○	郵便ごっこ	○	○	○	郵便ごっこ	○	○									
人数調べ	○	○	○	○																
当番活動		○	○	○	当番活動		○	○	当番活動(見る)		○									
カードゲーム, ボードゲーム		○	○	○	スリーヒントゲーム		○	○	カードゲーム, ボードゲーム		○									
七夕(短冊作り)	○	○	○	○																
招待状作り	○	○	○	○																
思い出(卒園記念)作り	○	○	○	○																
劇あそび		○	○	○	劇あそび		○	○	劇あそび		○									
集団ゲーム(ルールの話し合い)			○	○	集団ゲーム(遊びの掛け声)		○	○	集団ゲーム(遊びの掛け声)		○									
お店屋さんごっこ	○	○	○	○	お店屋さんごっこ	○	○	○	お店屋さんごっこ	○	○									
買い物ごっこ			○	○					買い物ごっこ		○	買い物ごっこ	○	○						
					ごっこ遊び		○	○	ごっこ遊び		○	ごっこ遊び	○	○	ごっこ遊び	○	○	ごっこ遊び	○	○
					ジュースやさんごっこ		○	○												
					ままごと		○	○	ままごと		○	ままごと	○	○	ままごと	○	○			
					猛獣狩り(歌遊び)		○	○	あぶくたった		○				まねっこ遊び	○	○	まねっこ遊び	○	○
									手遊び		○	手遊び, わらべ歌ふれあい遊び,	○	○	手遊び, わらべ歌ふれあい遊び,	○	○	手遊び, わらべ歌ふれあい遊び,	○	○
歌(歌詞を見る)	○	○	○	○	歌		○	○	歌		○	歌	○	○	歌	○	○	歌	○	○
									散歩		○	散歩	○	○	散歩	○	○	散歩	○	○
												体操	○	○	体操	○	○			

やり取りをする」など、保育者は、子どもと保育者だけでなく、友達とのかかわりを大切にして保育している。

5歳児では「書く」の項目が増え、かるた、すごろく作り、郵便ごっこなどの活動が実践されている。ねらいとして「数字や文字に親しむ」「すごろく作りを楽しむ」「文字や絵で書くことを楽しむ」などが記載され、子どもの姿として「五十音表を見て書く」「書けない字を友達に書いてもらう」など、字を書くことへの挑戦をする子どもに合わせ、保育者は環境を整えている。また、5歳児では、ねらいとして「皆に伝え

る」「発言する」「話し合う」などの記載があり、保育者は、友達の前で話す、友達の意見を聞く機会を作っている。

遊びの種類としての数と実践しているクラス数を一覧にした。(表3)種類としては、0歳児が7個、1歳児・2歳児が9個、3歳児・4歳児が19個、5歳児が24個であった。それぞれの遊びを選んだクラス数は、0歳児が18、1歳児が39、2歳児が49、3歳児が67、4歳児が71、5歳児が87であった。年齢が高くなるにつれ遊びの種類、数ともに多くなった。子どもの言葉の発達に合わせて、保育者が言葉に関する遊びを意

(表3) 遊びの種類数と実践しているクラス数

	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児
遊びの種類(種類)	24	19	19	9	9	7
遊びを抽出したクラス数(クラス)	87	71	67	49	39	18

識して実践している。

IV. 目安となる姿の作成

保育士へのアンケートから具体的な活動について、目安となる姿を考察する。

活動名：絵本（読み聞かせと絵本選び）

1. 目安となる姿の抽出

今回実施したアンケートの中で、どの年齢にも記述があった項目が、絵本であった。保育者が言葉に関する活動を考えるときに、大切にしている活動であり、日々の活動の中で必ず行っている活動である。絵本について以下のように考察をした。

保育士がとらえている各年齢の子どもの姿は以下の通りで、この記述からキーワードを抜き出し、年齢ごとの目安とする姿とした。

(1) 0歳児

- 絵本や紙芝居を聞く。
- 保育者の膝の上で絵本を見る。
- 保育者に絵本を読んでもらうことを喜ぶ。
- 気に入った話を繰り返し見る。
- 知っている動物が出てくると保育者の顔を見たり、指さしをする。
- 繰り返しの言葉をつぶやいたりする。
- 知っている物や気になっている物を指さし、訴える。
- 「ブーブ」「ワンワン」など出てくるものを指さしする。
- お話の中に出てくる簡単な動作を真似る。

①キーワード「繰り返し、指さし、知っている」

②目安とする姿

「保育士に絵本を読んでもらうことを喜ぶ」

「知っているものを見つけ指さしする」

(2) 1歳児

- 保育者に読んでもらうことを喜ぶ。
- 保育者の読む言葉をじっと聞く。

- 好きな絵本を保育者のところに持ってくる。
 - 知っているものを「(り) んご」「ブーブー」「ワンワン」等と話す。
 - 簡単なやりとりを楽しむ。
- 指さしに関する項目
- 知っている物を指さしたり、名前などを言葉で伝えようとする。
 - 興味のあるものを見つけ「あっあっ」と指差しする。
 - 知っている物の名前を言ったり、「あ！」と指さして伝えようとする。

模倣に関する項目

- 繰り返しの言葉がある絵本を喜び、真似て言う。
- 保育者の読み聞かせに合わせて簡単な言葉を模倣する。
- オノマトペなどの言葉を真似して話す。
- 真似して言葉を発する。
- 保育者の言葉を真似る。
- 簡単な言葉を模倣する。
- 保育者の言葉を真似たり、絵を見て言ったりする。

繰り返しに関する項目

- 繰り返しの言葉や、言葉のリズムを楽しみ真似をしようとする。
- 気に入った言葉を繰り返し言う。
- 「おーい」「おはよう」など絵本の中の知っている言葉を繰り返す。

①キーワード「まねて言う、繰り返し、指さし、知っている」

②目安とする姿

「繰り返しのある絵本を喜び、言葉をまねて言う」

「知っているものを指さしして、保育者に伝えようとする。」

(3) 2歳児

- 絵本や紙芝居に興味を持って聞く。
- 絵を見ながら保育者の言葉を聞く。
- リズムのある言葉を楽しそうに口ずさむ。
- 絵本の中の言葉を覚えて言う。

- ・友達と一緒に言ったり、笑い合う。
- 気に入ったに関する項目
- ・気に入った本を何度も読んでもらいたがる。
- ・気に入った絵本を繰り返し読んでもらう。
- ・保育者に好きな絵本を読んでもらう。
- ・気に入った絵本を自分で見る。
- ・気に入った言葉を何度も真似して言う。
- 模倣、繰り返しに関する項目
- ・繰り返しの言葉を真似る。
- ・繰り返しのある言葉を真似て言う。
- ・保育者の言葉を真似して言う。
- ・繰り返しの言葉や、言葉のリズムを楽しみ真似をしようとする。
- ・興味を持った絵を指さしたり、言葉の繰り返いを真似したりする。
- 名詞、伝えるに関する項目
- ・登場人物について自分の経験したことや思ったことを保育者に伝えようとする。
- ・絵をみて指差しをしたり、言葉で伝えたりする。
- ・子ども自ら絵本を手に取り、単語を話したり、保育者に伝えようとする。
- ・知っている物の名前を言葉で伝える。
- ・知っているものや気づいたこと、思ったことを話す。
- ・出てくる動物等を言う。
- ・気づいたことを伝えようしたり、知っているもの名前を言ったりする。
- ・知っている物の名前を言う。
- 質問に関する項目
- ・分からないもの等を「これ、なあに？」と聞く。
- ・わからないことを「なに？」と質問する。
- ・物の名前を聞く。
- ・好きな絵本を読んでもらい、保育者の問いかけに答える。

①キーワード

「気に入った、繰り返し、まねて言う、物の名前、伝えようとする、なあに？と聞く」

②目安とする姿

「気に入った絵本を繰り返し読んでもらい、言葉をまねて言う」

「知っている名詞を、保育者に伝えようとする」

「わからないものを「なあに？」と保育者に聞く」

(4) 3歳児

- ・絵本の絵を見ながらお話を聞く。

- ・紙芝居や絵本を喜んで見る。
- ・気に入った本をもってきて保育者に読んでもらう。
- 話の内容に関する項目
- ・話の内容を理解しようとする。
- ・絵本や紙芝居に興味関心を持ち聞く。
- ・お話の内容に親しみを持ったり、繰り返しの言葉を真似て言う
- ・絵と言葉が合致し、ストーリーを覚える。
- 覚えた言葉に関する項目
- ・聞いた言葉や印象に残った言葉を真似る。
- ・繰り返しの言葉を覚えて、保育者と一緒に言ったりする。
- ・気に入った言葉を繰り返す。
- ・覚えた言葉を何度も言う。
- 気づく、感じる、話すに関する項目
- ・気づいたことや感じたことなどを話す。
- ・知っている言葉に反応し、「○○してる」等話す。
- ・ストーリーの楽しさを味わい、感じたことを話す。
- ・感じたことや気づいたことを言う。
- ・保育者の読む本を見ながら、思ったことを言う
- ・心に残った場面について話をする。
- 読んだつもりに関する項目
- ・字は読めないが、絵を見て自分なりに物語を想像して、読んだつもりになる。
- ・文字を指で追いながら文字を読もうとする。
- ・読めるひらがなを読む。
- ・字は読めなくても覚えている言葉で読んでいる気持ちになる。
- ・興味のある本を持ち出して一人で見る。
- ・好きな絵本を繰り返し見る。
- ・気に入った絵本を繰り返し見る。
- ・自分の好きな絵本を見たり、保育者に読んでもらう。

①キーワード「話の内容、覚えた言葉、気づいた、感じたことを話す、読んだつもり、」

②目安とする姿

「話の内容に関心を持って聞く」

「絵本を見ながら気づいたり、感じたりしたことを話す」

「覚えた言葉で絵本を開き、読んだつもりになる」

(5) 4歳児

- ・保育者の読み聞かせを聞く。
- ・紙芝居や絵本を喜んで見る。

面白さ、イメージに関する項目

- ・話を聞き、面白さを感じる。
- ・言葉の面白さなどに気づく。
- ・絵を見たり話を聞き、イメージを膨らませる。
- ・絵や写真を見てイメージを膨らませて読む子もいる。
- ・紙芝居を見たり聞いたりする中で話の内容を想像する。
- ・読み聞かせに興味を持って見る。
- ・興味を持って話を聞く。
- ・言葉を理解して物語を楽しむ。

内容について話す項目

- ・話の途中で自分の思ったことを話す。
- ・次はどうなるのか考えたり、話したりする。
- ・感じたことを言葉に出して話す。
- ・面白さがわかり、感じたことを話す。

友達や保育者に関する項目

- ・好きな本を持ち出して見たり、友達と知っていることを話したりする。
- ・気づいた事や感じた事を保育者や友達に伝える。
- ・思った事や気づいた事、疑問に思った事を保育者に聞く。
- ・知らない言葉を「〇〇ってどういうこと？」と尋ねる。

自分で読む、文字に関する項目

- ・簡単な絵本を自分で読む。
- ・自分で読める子もいる。
- ・好きな絵本を見たり読もうとしたりする。
- ・簡単な絵本を保育者と一緒に読む。
- ・好きな絵本を友達と一緒に見る。
- ・字が読める子は、友達に読んであげる。
- ・絵本や紙芝居に書かれている文字を見る。
- ・字は読めないが、挿絵を見て自分で話を作ったり、繰り返しの言葉などを覚えて言う。
- ・字が読める子もいれば読めない子もいる。

①キーワード

「面白さ、イメージする、内容について話す、友達や保育者、自分で読む、文字」

②目安とする姿

「絵本の内容を自分なりにイメージしながら聞く」
「友達や保育者と絵本の内容について、思ったことや気づいたことを話す」
「好きな絵本を友達と一緒に見たり、自分でみたりする」
「絵本の中の知っている文字をたどる」

(6) 5 歳児

- ・絵本や紙芝居を保育者に読んでもらう。
 - ・静かに話を聞く。
 - ・言葉の面白さや、リズム、美しさに気づいたり、楽しむ。
 - ・繰り返しのある言葉や気に入ったフレーズを覚えて、保育者や友達と一緒に声を揃えて言う。
- 素話、想像するに関する項目
- ・素話から頭で色々な場面を想像し、思い浮かべる。
 - ・絵がないと話に集中できない子、イメージがしにくい子もいる。
 - ・読み聞かせや素話を聞く
 - ・聞いた言葉を理解して想像して楽しめている。
 - ・話の内容を理解し、想像しながら聞く。
 - ・自分の経験と結びつけながら、話を聞いたり、想像したりする。

分からないこと、調べるに関する項目

- ・自分の気付き、調べたことを言葉で伝えようとする。
- ・分からない文字があると、保育者や友達に聞く。
- ・分からなかったことを保育者に聞く。
- ・分からない文字は保育者や友達に聞いたりする。
- ・身近な動植物の名前や、世話の仕方など図鑑を使って調べようとする。

読む、文字に関する項目

- ・好きな絵本を自分で読む。
- ・自分で好きな本を読む。
- ・気に入った絵本を何度も見たり、声に出して読む。
- ・自分で本を読む時は、読める文字をゆっくり読んだり、読めない文字を保育者に聞いたりする。
- ・絵本や紙芝居に書かれている文字に関心を持ち、読んだりする。

①キーワードは、「想像する、素話、分からないこと、調べる、読む、文字」

②目安とする姿

「話の内容を想像しながら、絵本や素話を聞く」
「自分の気づき、調べたことを言葉で伝える」
「わからないことやわからない文字を保育者や友達に聞く」
「読める文字を追いながら自分で本を読む」

(7) 0 歳児から 5 歳児までの子どもの姿

- 0 歳児 ・保育士に絵本を読んでもらうことを喜ぶ。
・知っているものを見つけ指さしする。

- 1 歳児
 - ・繰り返しのある絵本を喜び、言葉をまねて言う。
 - ・知っているものを指さして、保育者に伝えようとする。
- 2 歳児
 - ・気に入った絵本を繰り返し読んでもらい、言葉をまねて言う。
 - ・知っている名詞を、保育者に伝えようとする。
 - ・わからないものを「なあに？」と保育者に聞く。
- 3 歳児
 - ・話の内容に関心を持って聞く。
 - ・絵本を見ながら気づいたり、感じたりしたことを話す。
 - ・覚えた言葉で絵本を開き、読んだつもりになる。
- 4 歳児
 - ・絵本の内容を自分なりにイメージしながら聞く。
 - ・友達や保育者と絵本の内容について、思ったことや気づいたことを話す。
 - ・好きな絵本を友達と一緒に見たり、自分で見たりする。
 - ・絵本の中の知っている文字をたどる。

- 5 歳児
 - ・話の内容を想像しながら、絵本や素話を聞く。
 - ・自分の気づき、調べたことを言葉で伝える。
 - ・わからないことやわからない文字を保育者や友達に聞く。
 - ・読める文字を追いながら自分で本を読む。

2. 絵本リストの作成

絵本についてワーキンググループの園長や主任と検討をする中で、保育の実践に生かすためには、子どもの姿だけでなく、年齢に合った絵本の読み聞かせのポイントと具体的な絵本リストが有効であるという話し合いがされた。ポイントとなる言葉やリストは、研修を受けた先生の資料から(表4)のように作成した⁵⁾。

3. 実践上の留意事項

このワーキンググループでは、保育者が目安となる子どもの姿を示すことについて、誤解をして保育するのではないかということが二点考えられた。

一点目は、子どもの育ちによる個人差である。保育現場では、それぞれの子どもに合わせて日々援助を行っている日常がある。すべての子どもが同じ姿になるこ

(表4) 絵本選びのポイントと絵本リスト

0 歳児	
形や色のはっきりしたもの 効果音や擬音語などが強調されているもの 5ページ程度のもの 1ページにつき単語が1~2つくらい	
いないないはあ(童心社) ころころころ(福音館書店) おつきさまこんばんは(福音館書店) おさじさん(福音館書店) ばんばんばんつ(ひさかたチャイルド) だるまさんが(ブロンズ新社)	くっついた(こくま社) たたくとぼん(あかね書房) くつくつあるけ(福音館書店) てんてんてん(福音館書店) おいしいうれしいな(アリス館) たまごこんこん(ひさかたチャイルド)
1 歳児	
○果物や野菜、食べ物や乗り物など身近なものに興味を持つ時期 シンプルで繰り返しのもの(同じ動作が物語の中で繰り返されるもの) 数字や図形を取り入れたもの 10ページ程度のもの 1ページにつき1~2行程度のもの	
みずちゃぼん(童心社) ぶらぶらさんぼ(アリス館) ぶくちゃんのすてきなばんつ(アリス館) でんでんどん(ひさかたチャイルド) きゅっきゅっきゅつ(福音館書店) でてこい でてこい(福音館書店) がたんごん がたんごん(福音館書店)	だるまさんが(ブロンズ新社) どんどこももんちゃん(童心社) ぴょーん(ポプラ社) くだもの(福音館書店) あっぶっぶ(ひかりのくに) おふろちゃぶちゃぶ(福音館書店)

保育現場における保育士が捉える言語活動

2 歳児	
<p>○自分の生活と絵本の内容とを少しずつつリンクできるようになる時期 食事、排泄、歯磨き、お出かけ等生活の中で毎日経験していることが題材のもの 繰り返しのもので、起承転結がはっきりしている短いもの 字が大きくはっきり書かれているもの はらぺこあおむし」「ねずみくん」シリーズ 15 ページ程度のもの 1 ページに付き 3~5 行程度のもの</p>	
<p>たまごのあかちゃん（福音館書店） もこもこもこ（福音館書店） 10 びきのかえる（PHP 研究所） ぎゅっ（徳間書店） どろだんごつくる（アリス館） ネズミくんのチョコッキ（ポプラ社）</p>	<p>はらぺこあおむし（偕成社） どっちのてにはいつているか？（偕成社） おんなじおんなじ（こぐま社） しゃぐちをあけると（福音館書店） くらいくらい（福音館書店） あめふりくまのこ（ひさかたチャイルド）</p>

3 歳児	
<p>○物語を聞いて、少しずつイメージができる力がついてくる時期 子どもの経験や体験と共通性のあるもの 子どもの興味のある内容のもの 同じ言葉の繰り返しによって展開されるもの 言葉と絵が連動していて目と耳でお話を追うことができるもの</p>	
<p>ぼくのくれよん（講談社） ひまわり（福音館書店） はらぺこあおむし（偕成社） もこもこもこ（文研出版） おにぎり（福音館書店） どうぶつのごもたち（福音館書店） コッコさんのおみせ（福音館） はけたよ はけたよ（偕成社） ちいさなねこ（福音館書店） ちいさなうさこちゃん（福音館書店） おやすみなさい おつきさま（評論社） かばくん（福音館） うさこちゃんのどうぶつえん（福音館） ごろごろにゃーん（福音館） とんとんとん（ひさかたチャイルド） ももたらう（福音館書店） ゆきのひのころわん（ひさかたチャイルド）</p>	<p>わたしのワンピース（こぐま社） おおきなかぶ（福音館書店） ぞうくんのさんぼ（福音館書店） てぶくろ（福音館書店） おでかけまえに（福音館書店） パンやのくまさん（福音館書店） ぐりとぐら（福音館書店） いたずらこねこ（福音館書店） はなをくんくん（福音館書店） かばくん（福音館書店） いちご（福音館書店） みんなのうんち（福音館） もけらもけら（福音館） おやすみなさいコッコちゃん（福音館） ようちえんいやや（童心社） ちょっとだけ（福音館書店） ひつじばん（鈴木出版）</p>

4 歳児	
<p>○少し長めのお話の絵本でも興味を持って楽しめる時期 子どもの好きな動物や乗り物などが登場するお話 季節や行事に関係するお話。昔話</p>	
<p>もりのなか（福音館） そらいろのたね（福音館書店） かいじゅうたちのいるところ（富山房） どろんこハリー（福音館書店） ぐるんぼのようちえん（福音館書店） しょうぼうじどうしゃじぶた（福音館書店） こすずめのぼうけん（福音館書店） 三びきのやぎのがらがらどん（福音館書店） あおくときいろちゃん（至光社） いたずらきかんしゃちゅうちゅう（福音館） しりとりのだいすきなおうさま（鈴木出版） じごくのそうべえ（童心社）</p>	<p>3 びきのくま（福音館書店） おふろだいすき（福音館書店） わたし（福音館書店） きつねとねずみ（福音館） くまのコールテンくん（福音館） つきのぼうや（福音館書店） へんしんトンネル（こぐま社） おだんごぼん（福音館） オオカミと7ひきのこやぎ（福音館） おかあさんのまほうのおうかん (ひさかたチャイルド)</p>

5 歳児	
○長めのお話や絵が少ないお話もイメージをして聞けるようになってくる時期 図鑑などに興味を持って自分から調べようとする時期 自分で絵本を手に取り読むようになる時期 シリーズものや冒険もの 動物、虫、花、乗り物、鳥、魚などの図鑑	
11 びきのふくろのなか (こぐま社) げんきなマドレーヌ (福音館書店) せんたくかあちゃん (福音館書店) めっきらもっきらどおんどん (福音館書店) ビーターのいす (偕成社) しんせつなともだち (福音館書店) おしいれのぼうけん (童心社) はじめてのおつかい (福音館書店) ビーターラビットのおはなし (福音館) すてきな三にんぐみ (偕成社) ペレのあたらしいふく (福音館書店) すみれとあり (福音館書店) おおきなおおきなおいも (福音館書店) くんちゃんのだいのり (岩波書店) ばけくらべ (福音館) みず (福音館) だるまちゃんとてんぐちゃん (福音館) ないたあかおに (偕成社) はははのはなし (福音館)	わたしとあそんで (福音館書店) かにむかし (福音館書店) おおきなきがほしい (偕成社) あおい目のこねこ (福音館書店) ラチとらいおん (福音館書店) こねこのびっち (岩波書店) モチモチの木 (岩崎書店) ちいさいおうち (岩波書店) よあけ (福音館書店) どんぐりかいぎ (福音館書店) 100 まんびきのねこ (福音館) だいくとおにろく (福音館) おしゃべりなたまごやき (福音館) いやいやえん (福音館) おしいれのぼうけん (童心社) やまんぼのにしき (ポプラ社) エルマーのぼうけん (福音館) きょだいなきょだいな (福音館)

とはないため、目安となる姿を示すことでその姿にならないといけないという誤解が生じるのではないかと
 いうことである。しかし、目安となる姿を示すことで、
 保育の振り返りを行う材料が示されること、今後、実
 践の中で見直しを行うこと、前置きの文章で目安となる
 姿の考え方について示すことを確認した。

二点目は、保育は総合活動であることである。今回
 言葉に焦点を当てて考えたが、言葉は「言語活動」と
 言われる遊びのみによって育つものではなく、日常の
 あらゆる場面で育っていくものであり、保育所保育指
 針においても同様に謳われている⁶⁾。言葉のみの姿を
 示すことでの誤解が生じることが心配されたのである。
 この点については、言葉は遊びにより総合的に発達す
 るものであることなどを文章で示すことで、誤解が生
 じないようにすることを確認した。

V. 考察

今回のアンケートから、保育園では、それぞれの年
 齢に合わせて、絵本の読み聞かせや絵本選びの実践が
 されていることが分かった。

0 歳児では、「保育者の膝の上で絵本を見る」「保育
 者の顔を見たり、指さしをする」など、保育者との温
 かい人間関係の中で絵本活動が営まれていることがう
 かがわれる。コミュニケーションとしての言葉は、伝

えたい相手がいること、伝えたいものがあることなど、
 土台となる人間関係を気付くことが大切であり⁷⁾、保
 育者はこうしたポイントを押さえながら保育をしている
 といえる。

1 歳児では、「知っているものの名前を言ったり、
 指さして伝えようとする」とあり、子どもには伝えたい
 という気持ちがあることを認識し、それを受け止め
 ようとする保育者がいる。子どもが指さしや言葉で伝
 える時、保育士は「そう○○ね」「○○が好きなの？」
 など、場面に合わせ言葉を添えて、子どもとの言葉の
 キャッチボールを行う。このような繰り返しの中で、
 「伝えたい、伝わった」という経験を重ね、さらに豊
 かな言語に育っていく⁷⁾。また、アンケートの回答で
 は子どもの姿として「真似る」という姿が多く出され
 た。初めての発語から日々を追うごとに盛んに言葉が
 出てくるこの時期に、保育者は、子どもが「真似る」
 ことがしやすいようにゆっくりとはっきりと言葉がけ
 をしている様子うかがえる。まねて言う子どもに
 「○○ちゃん、上手」と愛情をこめて褒め、真似るこ
 とを促していく。

言葉の爆発期と言われる 2 歳児では、アンケートの
 回答では「知っている物の名前を言葉で伝える」とあ
 る。この時期、未熟ではあるが言葉の数が増え、言葉
 で表現できることが増えてくる。保育者は、言葉によ

るコミュニケーションにつなげられるように、「これ、なあに」と何でも知りたがり、聞いてくる子どもに答える応答の関係を大切にして言葉のやりとりへとつなげていく⁸⁾。また、「気に入った」というキーワードにあるように、子どもそれぞれのお気に入りや把握して、興味のあることから言葉の世界を広げている。

3歳児のアンケートの回答では、「知っている言葉に反応し、知っていると話す」とあり、知識として言葉を獲得し、自分を表そうとしている3歳児の様子が表れている。2歳児とは違い「気づいたことや感じたことなどを話す」「思ったことを言う」など、単語ではなく文章の世界に入っている子どもに対して、保育者は、その言葉を受け止め、しっかりと聞いている。聞いてもらうことで、さらに話をしようとする3歳児らしい姿が表われている。また、「字は読めないが、自分なりに想像して読んだつもりになる」「文字を読もうとする」など、文字への興味関心の始まりが読み取れる。保育現場には、文字教育に対する抵抗感を持つ保育者がいるが、保育者は子どもの様子から、この時期には文字を読もうとする気持ちが生まれていることを感じている。大人の世界を再現する子ども達は、日常的に使われている文字に対して関心を持っている。興味、関心が持てる環境を用意するとともに、子どもの問いかけに積極的に応えていくようにする⁹⁾。

4歳児になると保育者だけでなく友達との世界が見えてくる。「友達に伝える」「友達と話す」などである。人間関係が豊かになり、頼りになる大人だけでなく、子ども同士の世界が広がっていく。また、アンケートの内容では、「内容を想像する」「イメージを膨らませる」とあるように、今ここにある世界だけでなく、現実には存在しない物や経験していないことを頭に思い描くことができるようになった4歳児の姿が表れている。そして、言葉が豊かになり「言葉の面白さに気付く」「言葉を理解して物語を楽しむ」など言葉による表現ができるようになってくる。保育者は、子どもの話に耳を傾けると共に、一対一の関係だけにとどめず、周りの子どもに会話を広げていく援助を行う¹⁰⁾。

5歳児は、文字の世界が広がっていく。アンケートの内容では、「自分で読む」「読めない文字を保育者に聞いてくる」などの姿が表れている。絵本は、絵と文字が書かれていて、保育者に読んでもらうことで話の内容を記憶し、そこに書かれている文字を想像しながら追うことができる。自分や友達の名前など、知っている文字を頼りに文字を推測する作業を進め、読める文字が増えていく。文字に関心を持ち、自分で文字を

読もうとする時には、簡単な絵本が大切な教材となる。読む、書くということに関心が広がってきた子どもには、簡単な繰り返しの絵本や読むために作られた短編の絵本なども、環境として整えていくようにする。

VI. さいごに

実践者である保育者からのアンケートを行い、記述された子どもの姿から目安となる姿をまとめたが、その姿は、保育所保育指針に示されている姿であり、保育者は指針に沿った保育を実践している。絵本については、以上のようにまとめたが、その他、ごっこ遊び(劇遊び)、3歳未満児のわらべ歌、手遊び、朝の会(朝のお集り)、かるた・すごろく、言葉遊び(なぞなぞ、すごろく、言葉集めなど)についても同様に遊びのポイントを付してワーキンググループとして『ことば』という小冊子を作成している。『ことば』の小冊子は、今年度末に園長会と主任会に提出する。「目安となる姿」が実際の子どもの姿に合っているのかどうかについては、来年度、現場で実践を行い、検証を行う。見直しを行うことでさらに実践に役立つものとなっていくと考える。

引用・参考文献

- 1) 小1プロブレムは、神戸親和女子大学の新保真紀子氏が1998年頃に提起し、その後、この問題が教育現場で顕在化することになった。
- 2) 原田大樹、「保育内容「言葉」と小学校国語科との接続 ～保幼少の学びの連続性を目指して～」,(福岡女学院大学紀要 人間関係学部編)2016年, p.69
- 3) 『保育所保育指針解説』 厚生労働省, 平成30年3月, フレーベル館, 2018年, p.248～p.266,
- 4) 同上書78頁～81頁
- 5) 瀧 薫, 『保育と絵本 一発達の道筋にそった絵本の選び方一』, エイデル研究所, 2010年 徳永満理, 『よくわかる0～5歳児の絵本読み聞かせ』, チャイルド本社, 2013年
- 6) 『保育所保育指針解説』 厚生労働省, 平成30年3月, フレーベル館, 2018年, p.23
- 7) 同上書90頁
- 8) 同上書167頁
- 9) 同上書259頁
- 10) 同上書261頁